

2025年12月4日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

ネイチャーポジティブの実現を支える 自然共生未来基金を設立 —ネイチャーポジティブを共に目指すパートナーとの 共創活動を推進—

【発表のポイント】

- 東北大学 COI-NEXT ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点（以下、NP 拠点）は、自然共生未来基金を設立しました。本基金は人と自然が育み合う持続可能な社会作り貢献するために活用されます。
- NP 拠点は本基金を通じてネイチャーポジティブ^(注1)に向けたお金の流れを生み出す仕組みの構築を目指します。その実現に向け、地域の自然・文化・産業を活かしたネイチャーポジティブな地域づくりと、ネイチャーポジティブを共に目指す企業との共創活動を推進します。
- 具体的な用途の1つとして、黒部川流域ネイチャーポジティブ・プロジェクト^(注2)を支援します。地域の様々なステークホルダーと協働し、自然と地域社会の豊かさを目指した取り組みを後押しします。

【概要】

東北大学大学院生命科学研究科の近藤倫生教授がプロジェクトリーダーを務めるNP拠点は、産学官民の連携活動を通じて、事業活動と地域の自然資本との関係性を再構築することや、地域内外の多様な主体が協働してネイチャーポジティブの実現を推進することの重要性を認識してきました。

NP拠点は2025年11月12日、自然共生未来基金を設立しました。本基金は、様々なステークホルダーが協働して自然の豊かさと社会の豊かさをともに育む取り組みを支援するとともに、こうした協働の動きを後押しし、ネイチャーポジティブの実現を促進するものです。

まずは富山県黒部川流域で取り組まれている黒部川流域ネイチャーポジティブ・プロジェクトを主な支援先とし、森から海までをつなぐ自然再生の取り組みを進め、今後は他地域にも活動を広げていきます。

■特設サイト：

https://www.kikin.tohoku.ac.jp/project/support_the_project/Harmony_with_Nature_Fund

きます。

現在、富山県黒部川流域の地域サイトの支援を受け付けています。具体的には、日本各地の豊かな自然と、その土地の文化・産業を活かし「自然の豊かさと社会の豊かさを共に育む」地域づくりを目指して基金を活用し、黒部川流域をフィールドに、企業・自治体・地域団体などが連携し、森から海まで流域全体で自然を保全・再生するプロジェクトである「黒部川流域ネイチャーポジティブ・プロジェクト」などに活用します。応援できる地域サイトは順次追加予定で、宮城県南三陸町や佐賀県唐津市などとの連携も進めています。

主な用途②：NP ビジネスの活性化

ネイチャーポジティブを社会全体に広げていくためには、企業や自治体、地域団体など多様な主体の協働が欠かせません。多様な主体がつながるための入り口として今回の基金を設立しました。自然と共生できる未来づくりをサポートしたい個人の方や企業等の団体の方が NP 拠点とつながる機会になればという期待があります。支援企業に対しては、企業自身の持続可能な事業開発に繋がる具体的な特典や連携機会を提供し、「ネイチャーポジティブ」に向けてお金が流れる仕組みの構築を目指すことで持続可能な社会経済の基盤づくりに寄与していきます。

NP 拠点では、関係者の連携を促し、ネイチャーポジティブな取り組みに資金が循環する仕組みづくりや、各主体をつなぎ、新たな事業や活動を生み出す人材の育成・支援に注力しています。こうした取り組みは、地域資源を活かした事業開発や、国際的な枠組みへの対応にもつながり、持続可能な社会経済の基盤づくりに寄与していきます。

<プロジェクトオーナーである東北大学 NP 拠点 拠点長によるコメント>

ネイチャーポジティブは、もはや環境分野だけのテーマではありません。気候変動、地域の産業、食、金融、人材育成—すべてがつながる、社会全体の挑戦です。私たち NP 拠点は、その「つながり」を原動力に、地域と世界の両方で、新しい協働のかたちをつくり出すことを目指しています。今回スタートする『未来基金』は、大学発のチャレンジとして、この大きな動きをさらに広げるものです。地域の多様な声と、科学、行政、企業が出会い、次の時代の社会像を共に描くための土台になります。この基金が、志ある人やプロジェクトに光を当てる仕組みとして育ち、多くの共創がここから生まれていくことを願っています。



NP 拠点 拠点長

東北大学大学院 生命科学研究科 統合生態研究室 教授
近藤 倫生

<東北大学 NP 拠点 副拠点長によるコメント>
基金を通じてネイチャーポジティブな地域づくりや
ビジネスの活性化が進むことを期待しています。私
がリーダーを務める黒部川のプロジェクトでは、流
域の自治体や企業、住民が連携して流域ネイチャー
ポジティブの先進的なモデル地域になることを目指
しています。資金は地域での調査研究や保全活動、
ビジネス創出や人材育成、運営などに活用します。
支援して下さる皆さんと共に地域づくりを進めてい
きます。



NP 拠点 副拠点長

東北大学 グリーン未来創造機構・大学院生命科学研究科 教授
日経 BP ESG フェロー
藤田 香

【用語説明】

注 1. ネイチャーポジティブ：「2020 年を基準として、2030 年までに自然の喪失を回復基調に逆転させ、2050 年までに完全な回復を達成する」という世界的な社会目標。2022 年 12 月に開催された生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15）において新たに設定された。

注 2. 黒部川流域ネイチャーポジティブ・プロジェクト：黒部川流域をフィールドに、企業・自治体・地域団体などが連携し、森から海まで流域全体で自然を保全・再生するプロジェクト。NP 拠点副拠点長の藤田香教授がリーダーを務める産官学連携プラットフォーム「黒部川ネイチャーポジティブ検討会」（2025 年 4 月発足）が中心となって進めており、2025 年 10 月に環境省の公募事業「ランドスケープアプローチの実践事業」に採択。ランドスケープ・アプローチを日本の流域で具体化し、自然と地域価値が両立する持続可能なモデル創出を目指す。

【問い合わせ先】

（内容・報道に関すること）

東北大学ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点
広報事務局：上田 羊介
TEL: 022-795-6688
Email: np-hub_comm@grp.tohoku.ac.jp

（寄附に関すること）

東北大学総務企画部 基金・校友事務室
TEL:022-217-5058
Email: kikin@grp.tohoku.ac.jp